

## 韓国語研修を終えて

2009年8月30日から9月25日まで、韓国の交流協定校のひとつである嶺南大学校において、韓国語の語学研修が行われました。今回は、この研修に参加した学生の感想をお伝えします。

### ▼ 到着した時の戸惑い

実際に韓国に行くとなると人の会話、空港の看板、バス停などすべて韓国語であるため、海外経験がなかった私にとってはこの時点で不安が大きかった。交通面でも、日本は車より歩行者を優先するのに対して、韓国は逆であるため、信号機のない所でも高スピードで飛ばすので歩くのが怖かった。市バスも、急ブレーキをかけるためつり革1本ではきつかった。それでも、現地で韓国語授業、文化体験、テグ市内で実際に店の看板を見たり、歩いている人々の会話を聞いたりすると、わからない韓国語が次第に理解できるようになったので、日本で勉強するのと比べて身に付きやすいことが実感できた。(荒巻博行)



韓国語の先生方と

### ▼ 生活環境と韓国語の授業

寮での自分の部屋は2人部屋だった。壁にはかわいい花の絵がデザインされていて、ベッド・クーラー・オンドル・シャワールーム・キッチン・冷蔵庫など、快適に過ごせる道具が揃っていた。とても良い勉強環境だったと思う。



慶州に日帰り旅行

3日目から待望の授業が開始した。今回授業を担当してくれた先生は、3人共とても楽しい授業をしてくれて、朝9時から4時間、飽きずに集中して受けられた。そして授業初日から引率の先生をまき込んで、夜の勉強会が開かれた。主に次の日の予習と、当日やった復習である。遅い時は零時を超える日もあった。韓国語の歌も練習した。仲良くなった先生達に披露するために、また韓国語に慣れるために、引率の先生がチョイスしてくれたものを、1人1曲ずつ選んで練習に励んだ。何回も何回も慣れるまで繰り返し練習した。その成果もあり、皆着々と歌を自分のものにしていき、歌詞なしでも歌えるようになった人もいた。(菅原庸平)



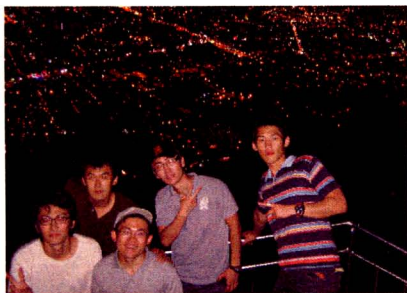
韓国の伝統楽器を習う

#### ▼ 課外活動について

テコンドーは本当に見ていてかっこよく、やってみてとても楽しかった。高いキックの練習をするなど、いろんな技を習って実際にやった。次の日は足が筋肉痛だったが…野球観戦では韓国で有名なサムソライオンズの試合を見ることができ、韓国で有名な選手も目の前で見ることができてよかった。陶磁器作りでは回転したのを加工する作業は初めてだった。また、自分が作った作品も焼きあがったものはとてもきれいだった。韓国の伝統的な楽器の体験では、韓国の太鼓の簡単なリズムができるようになって嬉しかった。みんなで楽しく演奏できた。(荻原拓也)

#### ▼ 旅行・ホームステイについて

私にとって韓国語で会話して、相手と通じたことが最もうれしかった。そのため、小旅行やホームステイでのチューターとの会話はかけがえのないものだった。辞書を使いながらのコミュニケーションは大変だったが、やりがいがあった楽しかった。ホームステイではうまく会話できるか不安だったが、チューターがとても気を使ってくれた。韓国語で伝わらない時には、英語を使って話したりもしたが、それでも良く分からない時があり、申し訳なさや悔しさでいっぱいだった。もっと話せるように勉強したいと思った。韓国語を上達させたいのならば、実際に話してみるのが最善だと実感した。(河合徹)



チューターと登ったアプ山

#### ▼ 韓国の人々との交流

国際交流担当の先生方や、チューターとして志願してくれた学生達が、右も左もわからない私たちのために、いろいろな場所に案内してくれたり、話し相手になってくれたり、韓国語を教えてくれたりした。特に国際交流の先生方は私たちに対して熱心に対応してくれた。何度も食事に誘ってくれて、野球の試合に行ったときは電光掲示板で熱烈な歓迎を受けた。ここで学んだのは、「人に対して敬意を示すこと」「気配りの大切さ」。この2つが、人との信頼を得るためにはとても重要なのだということを知った。(瀬田純己)

#### ▼ 語学研修を終えて

23日間という短い期間の中で、たくさんの友人と出会うことができた。年齢も学年も性別も国籍も違うが、短期語学研修というひとつのプログラムをきっかけに出会い、純粋にその一瞬一瞬を楽しめた日々だった。いっぱい思い出と濃い日々をみんなと一緒に共有することができた。このテグでのひと夏は私の誇りであり、私の心の中で消えることのない思い出として刻まれている。(副島達郎)



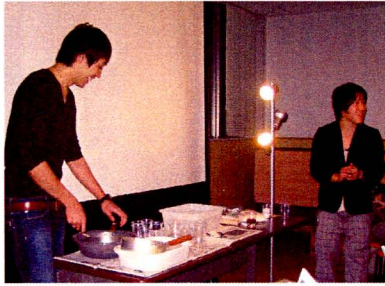
お世話になったパク・ソンホさんと

今回の研修はとても有意義で、楽しいものだった。一番の収穫は、やはり韓国語を学べた事だと思う。外国に行くとショッピングをしたり、観光をしたりと楽しい事も沢山あるだろう。しかし、言葉が分からないければ、意思疎通ができず交流もできない。海外に行って、その国を知るためには、まずその国の言葉を知らなければならないと思う。会話が出来れば、友達をつくれるし、文化をより深く知ることが出来る。世界には国が沢山あり、沢山の言語がある。今回の韓国語研修は世界観を広げ自分を成長させてくれる大事なものだったと思うし、世界に友達を増やす重要なステップだったと思う。(菅原庸平)

韓国に滞在することで言葉のシャワーを浴びることができたのは貴重な体験だった。もっと長く韓国に滞在したくなり、再び来てみたいとも思った。とても楽しいことばかりの語学研修だった。(河合徹)



# エコキャンドル作り@International "C" Hour



11月のインターナショナルCアワーは、本学の環境保全学生委員会KITeco、(通称キテコ)との共催で行いました。テーマは「エコキャンドルで明日を照らそう」。プログラムはまず、キテコの活動紹介やエコキャンドルを作成するに至ったいきさつ、その意義などに関するプレゼンテーションに始まり、続いてキャンドル作りの実演が行われました。

その後、参加した留学生が実際にキャンドル作りに挑戦。暖めた廃棄食用油に凝固剤を混ぜ、コップに入れて固める作業を体験しました。台湾からの研究生、温 皓芸さんは、「エコだし、夜に灯せば雰囲気がとてもいいですね。是非使います。売れる品だと思う」と話していました。参加者にはキテコメンバーがあらかじめ作成しておいたキャンドルがひとつずつ配られ、皆思い思いの絵を描いて持ち帰りました。



5時以降は総合研究棟から正門までの道沿いに130個のエコキャンドルが灯され、帰途につく人々の心を暖めてくれました。

## エコキャンドルの作り方

1. 廃油を80度ぐらいまで温め、凝固剤(スーパーで買える)を混ぜて冷ます。40度ほどに下がったところでアロマオイルを2~3滴落とすと、香り付きのキャンドルに。
2. 1を型に流し込む。使い捨てコップでもOKですが、ガラスの空き瓶やペットボトルなどを使うとよりエコ。
3. たこ糸を割り箸にくくりつけて型の中に垂らし、固まるのを待つ。
4. 紙に好きな絵を描いてコップの周りに貼れば、世界に一つしかないキャンドルの出来上がり。



## 体育の日の空に快音

10月12日、体育の日の休日に、OFICのメンバーの呼びかけで、留学生と日本人学生十数名がソフトボールを行いました。6月の催しが好評だったことを受けて今回は2度目の開催。初めてのソフトボールでピッチャーも務めた朱智瑩さんは、「見ていると簡単そうでも、やってみると難しかったです。でも、ヒットを打ってベースに出られた時はすごく嬉しいですね」と話していました。



# ようこそ北見へ！ 一留学生歓迎会一

10月22日、今学期本学に新たに加わった12名の留学生を歓迎する会を本学生協にて開き、100名余りの学生および教職員が集いました。



鮎田学長による歓迎の言葉に続き、山岸国際交流センター長による新留学生の紹介があり、一人ひとことずつ自己紹介をしてもらいました。テーブルにはオード

ブルや塩焼きそばに加え、教職員と学生有志の手による肉料理や焼き芋が並び、参加者は和やかに交流のときを過ごしました。



## お知らせ

\* 次回のインターナショナル”C”アワーは、恒例のインターナショナルコンサートです。12月11日（金）16時30分より、総合研究棟3階のリフレッシュルーム向かいの部屋で行います。どなたもお気軽にお越し下さい。また、出場者も募集中です。歌でも楽器でも、また、一人でもグループでも、どこの国の音楽でもOKです。興味のある人は国際交流センターまでどうぞ。

\* 在留期間の更新手続き、再入国許可書、資格外活動許可書などの申請が必要な留学生は、至急国際交流センターに申し出て書類の準備をしてください。センターのスタッフが、12月初旬に釧路の入国管理局に出向きます。

\* 来年1月13日（水）16時20分より、総合工学Iの授業で、「語学研修を通じて学ぶ異文化」と題し、これまでに参加した学生が発表を行う予定です。本学の語学研修・海外留学の概略も説明します。海外で学ぶことに興味のある人は是非出席してください。詳しくは掲示をご覧ください。

\* 冬休みに遠出をする留学生は、事前に国際交流センターに一報を！

World Wisdom

人生は何回息を吸ったかではなく、  
どんなことで息を呑んだかで決まる。  
一出典不詳